

に詳しいが、進貢に必要不可欠の人員は時代を問わず一定であつたと思われるからである。なお同論文付録史料も参照のこと。

右の符文は正議大夫程鵬・都通事蔡齊等に付し、^②これに准ぜしむ
進貢等の事符文

注*この入貢については『明実録』成化六年二月辛未、四月庚戌の条に記事がある。

1-23-03

国王尚徳の、進貢のため正議大夫程鵬等を遣わす符文

(一四六九、八、一五)

琉球王中山王尚徳、見^げに進貢等の事の為にす。

今、特に正議大夫程鵬を遣わし、同差の長史梁賓・使者安遠路等と、表文一通を齎捧せしむ。及び徳字号海船一隻に坐駕して馬一十五匹・硫黄二万斤を装載し、京に赴き進貢し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承くれれば、途に在りて遅滞して便ならざるを得しむる母れ。所有の符文は須らく出給に至るべき者なり。

今開^しす 赴京の

正議大夫一員 程鵬

使者三員 明泰 埜麻志 物志麻

都通事一員 蔡齊

人伴二十一名

国王附搭の蘇木五千斤・胡椒一千五百斤・番錫五百斤

成化五年(一四六九)八月十五日

1-23-04

世子尚円の、謝恩のため長史蔡璟等を遣わす符文

(二四七〇、九、七)

琉球国中山王世子尚円、見^げに謝恩等の事の為にす。

今、特に長史蔡璟を遣わし、同差の使者吳司馬・実奇那及び王達魯等と、共に表文一通を齎捧せしむ。及び智字号海船一隻に坐駕し、馬一十五匹・硫黄二万斤・鍍金銅結束紅漆靴鞞腰刀二把・鍍金銅結束黒漆靴鞞鞞腰刀二把・鍍金銅結束紅漆靴鞞鞞腰刀四把・象牙四百斤・束香二百斤・胡椒四百斤を装載し、京に赴き謝恩し、仍お礼部に赴き告稟して進収せしむる外、茲の諭遣を承く